

## 平成28(2016)年「正覚寺報」3月号

## ご案内

**仏教壮年会お聴聞の会** 3月6日(日)20時~

本格的にお聴聞を目指して始まった会合です。賑やかなお参りをお待ちしております。

**仏教婦人会例会** 3月16日(水)9時半~

お聴聞の基本となるのが例会です。互いにお声を掛け合って賑やかに参り下さいませ。

**正覚寺彼岸会** 3月19日(土)14時、19時半

恒例の春の彼岸会です。お誘い合わせてお参り下さい。他院様の日程は下記の通りです。

3月17日徳勝寺様、21日徳善寺様

**本願寺常例布教出講** 4月1日(金)~4日(月)

昼の座 14時~、夜の座 19時~、晨朝 6時

住職は、ご本山は聞法会館での常例ご法座に出講させて戴くことになりました。

是非、お同行の皆様にも親しくお聴聞のご縁にお会い戴きたくご案内申し上げます。

**正覚寺様の永代経にお参りさせて戴きました**

二月十四日、水保町は大谷派の正覚寺様の永代経法要にお参りさせて戴きました。正覚寺という県内だけでも十ヶ寺を数えます。まったく初めてとも思えない親しみがわきます。

「ここへ駐車してよいでしょうか」

「実は私も今日来たばかりなのです」

「それでは認め合ってとめておきましょう」

「ええ！、四日市からこられたのですか」

お客層の姿を追い求め、富山から車で見えた方までいらっしゃいました。お聴聞を人生の目的となさるお同行の尊いお姿でありました。

「難しい話を聞こうと思えばお東のお寺がよい、有り難い話を聞こうと思うならお西のお寺がよい、易しい話を聞こうと思うなら、親鸞会のご法座にお参りすればよい」と云われている位、熱心なお同行は欠かさず足を運ばれます。

そう伺いますと、今日はお東のお寺様であり、お客僧はもとは親鸞会で鍛え上げられ遠方からもお同行が訪ねて見えるお客僧様ですので、どんな話しぶりをされるのであろうかと、お西の住職は興味津々であります。

真新しいご本堂は木の香りがするようです。聞けば凡そ二十年前に新築されたとのこと、思わずその次第に詳しく耳を傾けます。

決して少なくはない賑やかなお参り、お念仏の土徳がほのかに通い、落ち着いたご年配の男のお同行の面々、仏教婦人会の皆様が多く、お茶の接待をして戴けます。皆様の雰囲気はふんわりと柔らかくお聴聞を通して長い人生を歩んで来られたことがよくわかります。

お勤めは、観経の「かの国に生ぜんと欲(おも)はんものは云々」までの読み下し文を御門徒様とご一緒にあげます。

なるほど、これだといくつか読み下し文を用意してご一緒にご法座のたび毎に繰り読みすれば、阿弥陀様のお救いのお目当てが苦悩の有情(凡夫)であることがよくわかります。その後はお正信偈でありました。

ご法座は、もともとインターネット上で知りました。アップしたのは猫住職、一体「猫住職」って誰だ。その秘密もわかってしまいました。

「ただ一筋にお念仏を称え、今、仏がどのようなお心から念仏を称えさせて下さっているかを聞かせて戴く」趣旨のご讃題に始まり、

「南無阿弥陀仏と称えれば聞こえて下さるお名号に耳を傾けることを通して、南無阿弥陀仏のお名号に遇わせて戴くことが出来る」趣旨を熱心にお取次ぎ下さったのでありました。

お客僧は、本年秋の当院報恩講にお招きするお東のお寺様、瓜生 崇師でありました。合掌。